

2025 年度助産師職能委員交流会は、院内助産開設を推進するガイドブックとして作成した『いわての未来を守る 院内助産 ことはじめ』(以後、『院内助産 ことはじめ』)の活用方法等を話し合いました。『院内助産 ことはじめ』は、昨年度の交流会に参加して下さった岩手県内の助産師さんの意見を踏まえて作成したものであり、岩手県の周産期医療の現状に特化した内容になっています。



グループワークでは、参加者の意見をリアルタイムで共有できる「slido.com」を使用し次の3点を話し合いました。1つ目の『院内助産 ことはじめ』を読んでみる感想は？では、参加者から「岩手県の現状に合っている」「みんなで共通認識を持つために役立つと思う」「助産師だけでなく、他のスタッフも理解しやすい」等の感想をいただきました。2つ目の『院内助産 ことはじめ』をどう活用できる？では、「病棟だけでなく病院全体への周知」「多職種への説明」「妊産褥婦さんへの説明」の時に活用することができるのではないかと意見が出ました。3つ目のみんなに伝えるときどのページが使える？では、「院内助産の色々なカタチ」が紹介されていることや院内助産の質を担保するために必要な妊娠期・分娩期・産褥期ごとの「チェックリスト」があること、院内助産のための「ユニットマネジメント」等が役立つとの意見が出ました。



短い時間ではありましたが、院内助産について施設を超えて共に考える時間を持つことができました。「助産師同士のため、すぐに深い話もでき、情報交換やジレンマ等も話せる非常に良い機会だった」と、他施設の方との交流を通して、自施設が課題としていることの解決のヒントを得たり、また、自施設の強みを理解する時間にもなったようでした。助産師同士の交流は、岩手県全体の助産ケアの質を上げる貴重な時間となることを改めて感じました。

これから、完成した『院内助産 ことはじめ』を産科のある施設へ順次お送りいたします。皆さままでお手に取り、ご一読いただければと思います。

(助産師職能委員 金谷掌子)